

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】平成28年6月9日 (2016.6.9)

【公表番号】特表2015-512734(P2015-512734A)
 【公表日】平成27年4月30日 (2015.4.30)
 【年通号数】公開・登録公報2015-029
 【出願番号】特願2015-505025(P2015-505025)
 【国際特許分類】

A 6 1 F 2/46 (2006.01)

A 6 1 F 2/32 (2006.01)

A 6 1 B 17/56 (2006.01)

【F I】

A 6 1 F 2/46

A 6 1 F 2/32

A 6 1 B 17/56

【手続補正書】

【提出日】平成28年4月12日 (2016.4.12)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

被験者の骨盤に対する寛骨臼構成要素の位置合わせを容易にするために用いる装置であって、

前記装置は、装置本体と、被験者の寛骨臼縁上の第 1 の所定の装着位置に配置するための少なくとも第 1 のロケータと、前記寛骨臼縁上の第 2 の所定の装着位置に配置するための第 2 のロケータと、前記寛骨臼縁上の第 3 の所定の装着位置に配置するための第 3 のロケータとを有し、前記装置は、寛骨臼構成要素の位置合わせを容易にするために設置されるときに前記被験者に対する方向および / または位置を規定し、前記装置は、使用時に前記被験者の所定の天然ランドマークと位置合わせするための位置合わせ基準要素を更に備え、前記天然ランドマークがユーザによって特定でき、前記第 1 及び第 2 及び第 3 のロケータは、前記位置合わせ基準要素と前記天然ランドマークとの位置合わせ時に、前記ロケータがそれぞれの装着位置に位置決めするように前記位置合わせ基準要素に対して位置付けられ、前記自然ランドマークが、前記寛骨臼縁上以外の所定のランドマークである

装置。

【請求項 2】

前記ロケータまたは前記ロケータのうちの 1 つは、寛骨臼上縁上の所定の装着位置に配置するための上ロケータであり、1 つは、寛骨臼前縁上の所定の装着位置に配置するための前ロケータであり、1 つは、寛骨臼後縁上の所定の装着位置に配置するための後ロケータである

請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記位置合わせ基準要素は、前記天然ランドマークで前記被験者の骨盤内におけるピンの配置を案内するためのピン配置ガイドを備えるか、又は、使用時に前記天然ランドマークと位置合わせされ得る位置合わせマーカを備える

請求項 1 に記載の装置。

【請求項 4】

前記装置は、前記位置合わせ基準要素が被験者の外閉鎖筋腱溝内で骨隆起部と位置合わせされ得るように構成される

請求項 1 から 3 のいずれかに記載の装置。

【請求項 5】

前記前後ロケータ間の間隔をユーザにより調整できる

請求項 2 から 4 のいずれかに記載の装置。

【請求項 6】

前記装置本体が第 1 および第 2 の部分を有し、前記上ロケータが使用時に前記装置本体の前記第 1 の部分上にありあるいは前記第 1 の部分に結合され、前記前後ロケータが使用時に前記第 2 の部分上にありあるいは前記第 2 の部分に結合され、前記第 2 の部分が使用時に前記第 1 の部分にスライド可能に装着される

請求項 2 から 5 のいずれかに記載の装置。

【請求項 7】

前記前ロケータは、前記後ロケータとほぼ直径方向に対向して位置される

請求項 2 から 6 のいずれかに記載の装置。

【請求項 8】

前記装置は、前記被験者から測定される寛骨臼センターエッジ角に基づいて前記被験者に対する前記寛骨臼構成要素の方向を制御できるようにするべく構成される

請求項 1 から 7 のいずれかに記載の装置。

【請求項 9】

前記装置は、寛骨臼構成要素を設置できる前記装置が設置されるときに少なくとも前記被験者に対する方向を規定するための少なくとも 1 つのガイド部を更に備える

請求項 1 から 8 のいずれかに記載の装置。

【請求項 10】

前記ガイド部が少なくとも 1 つのピン配置ガイド又は長尺ロッドを備える

請求項 9 に記載の装置。

【請求項 11】

前記上ロケータの位置を前記装置本体に対してユーザにより調整でき、前記装置に対して回転可能に調整できる

請求項 2 から 10 のいずれかに記載の装置。

【請求項 12】

前記装置本体に対する前記上ロケータの位置は、前記被験者から測定されるセンターエッジ角に基づいてユーザにより選択され得る

請求項 11 に記載の装置。

【請求項 13】

前記装置は、被験者の臼蓋窩の中心を実質的に規定するための手段を更に備える

請求項 1 から 12 のいずれかに記載の装置。

【請求項 14】

前記第 1 のロケータおよび / または前記第 2 のロケータおよび / または前記第 3 のロケータはそれぞれ、前記装置が設置されるときにそれらのそれぞれの装着位置とほぼ点接触するように構成される

請求項 1 から 13 のいずれかに記載の装置。

【請求項 15】

前記装置は、少なくとも前記寛骨臼構成要素が設置されるときに前記寛骨臼構成要素が位置合わせされるようになっている方向に設置した時に向く寛骨臼位置合わせ軸を有し、前記寛骨臼位置合わせ軸に対して垂直な平面内で前記寛骨臼位置合わせ軸周りに測定される前記上ロケータと前記後ロケータとの間の角度 γ は、約 $66 \sim 86^\circ$ 、好ましくは約 $74 \sim 78^\circ$ 、より好ましくは約 76° であり、前記装置は、前記位置合わせ基準要素が被験者の外閉鎖筋腱溝内で骨隆起部を備える天然ランドマークと位置合わせされ得るように

構成され、前記被験者の寛骨臼中心と前記上口ケータとの間の第 1 のベクトルと前記被験者の寛骨臼中心と前記天然ランドマークとの間の第 2 のベクトルとの間の角度 A は、前記第 1 および第 2 のベクトルが矢状面上に投影されるときに、約 1 1 2 ~ 1 3 2 °、好ましくは約 1 2 0 ~ 1 2 4 °、より好ましくは前記装置が設置されるときに測定して約 1 2 2 °である

請求項 2 から 1 4 のいずれかに記載の装置。

【請求項 1 6】

請求項 1 から 1 5 のいずれかに記載の装置の組み立て時に利用される 部品のキット。